

2050 神河将来 ビジョン

もっと大好き
みんな大好き
夢ふくらむ
かみかち





ごあいさつ



本町の最上位計画である第2次神河町長期総合計画では「ハートがふれあう住民自治のまち ～大好き!私たちの町 かみかわ～」を将来像として掲げ、「安全安心なまちづくり」「交流から関係そして定住」「子育て環境の充実」「山林・農地の活用による雇用創出」などの取り組みを進めてきました。

一方で、神河町地域創生総合戦略・人口ビジョンでは、2050年の神河町の人口が6,000人台になる推計も示されており、人口減少は避けられません。持続可能なまちづくりは行政が取り組むべき課題であり、その姿(ビジョン)をこの度お示しする機会をいただきました。

さて、本ビジョンの策定にあたって開催した神河みらい創造ワークショップ 2050 やアンケート調査からは、町域の9割を占める山林や河川、田園などに愛着や誇りを感じている方が多く、未来に向けた財産として、大切に引き継いでいくべきであるという共通認識を改めて確認できました。

また、大規模自然災害や令和2年頃からの新型コロナウイルス感染症の拡大のような予測できない脅威への不安がある一方で、先端技術の発展などにより私たちの生活はさらに便利になり、医療や福祉の発展によってこれまで以上に健康長寿社会が実現していくと考えられます。

未来の社会がどのようなようになるのかは誰にもわかりません。しかし、どんな未来を迎えたいかという願いを持ち、その実現に向けて取り組むことは可能です。

本ビジョンでは人口が減少しても元気なまちであり続けることをめざし、まちづくりの分野ごとに理想とする未来の姿と、その実現のために必要となる取組の方向性を描きました。

ここで掲げたような2050年の神河町を実現することができるよう、逆算して、今、私たちに何が出来るのかを考え、本ビジョンが住民・行政、神河町に関係する方々が共有する羅針盤として、一体感を持ってこれからのまちづくりに反映させていきたいと考えています。

結びに、2050 神河将来ビジョンの策定にあたり、熱心にご審議いただきました2050 神河将来ビジョン策定委員会委員をはじめ、神河みらい創造ワークショップ 2050 の参加者、役場職員プロジェクトチーム、アンケートにご協力いただきました神河中学校生や住民の皆さまなど、全ての皆さまに心から感謝申し上げます。

令和5(2023)年3月
神河町長

I	2050年の神河町の姿	3
1	まちづくりの基本姿勢.....	4
2	2050年の神河町のイメージ.....	6
3	めざす姿.....	8
	まち全体のめざす姿	8
	変わらない風景を未来の世代へ.....	8
	まちづくりの分野別のめざす姿	10
	1 自分らしい暮らし方を選べるまち.....	10
	2 いくつになっても笑顔で健やかに暮らせるまち.....	12
	3 自然に囲まれて元気に子どもが育つまち.....	14
	4 安全・安心が持続するまち.....	16
	5 魅力と活力あふれる産業があるまち.....	18
	6 世界で活躍できる人が育つまち.....	20
	7 温かい交流があふれるまち.....	22
II	実現に向けて	25
1	ビジョンの実現に向けて.....	26
2	ビジョンとSDGsの関係.....	28
III	2050神河将来ビジョンについて	31
1	ビジョンの役割.....	32
2	ビジョンの前提条件.....	34
3	策定の視点.....	39
	資料編	41
	■ アンケート調査について.....	42
	■ ワークショップ意見.....	44
	■ 策定経過.....	46
	■ 設置要綱.....	47
	■ 委員名簿.....	48
	■ 用語解説.....	49

I 2050年の 神河町の姿

1 まちづくりの基本姿勢

2050 Kamikawa Story

「あれ!? わたしどうしたんだろう。さっきまで学校の授業中だったはずなのに。」

周りを見渡すと山と田んぼ、緑に囲まれたいつもの神河町の景色。

だけど何かがちよっと違うような気がする。

タブレットの表示を見ると…。

「え、2050年!？」

どうしよう。どうやらここは未来の神河町みたい!？」

でも、どんな未来になっているのかちよっと気になるなあ。



山林や里山、川、田畑がたくさんある神河町の風景は2050年にも守られていて、安心できる環境の中で、先端技術を取り入れながら便利で快適に誰もが楽しく生活ができている。子どもから高齢者まで、あいさつしたり支え合ったりできるつながりもさらに深くなっているみたい。

「わたしが好きだった神河町は2050年でも変わらないんだな。」

授業では人口が減ったり少子化が進んで、

神河町の元気がなくなってしまうかもって言っていたけどそんなことはないみたい。

「お姉さん、どこの子？」

どうしよう。小学生の男の子に声をかけられちゃった。

「親戚の家に遊びに来てるんだ。きみは神河町の子？」

「そうだよ。良かったら神河町を案内しようか？」

大丈夫かなあ。でも、なんだかこの子と話していると安心するような…。

せっかくだから未来の神河町をいろいろ見てみよう。



2050年の神河町はどんなまちになっているのでしょうか。今よりも人口が減っていたり、高齢化が進んでいるかもしれません。

一方でSDGsやカーボンニュートラルなど自然環境を守り、活かしていくことが国際的なトレンドとなっている中で、まちの9割を占める山林や田園の資源を活用することができれば今と変わらない神河町の魅力を維持しながら、新しい魅力を生み出すことができる地域であり続けることも可能です。

また、「ハートがふれあう住民自治のまち」を掲げてきた神河町では人と人のつながりや交流はまちづくりを進めていくうえで最も大切な要素となっています。

子育てや福祉の分野、災害時の対応など幅広い場面で地域の支え合いが行われることが、神河町の魅力や強みであると言えます。

みんながあいさつをし合い、いざというとき助け合えるような関係性を継続し、住民にも訪れた人にも「神河町が大好き」と思ってもらえるような、ふれあいのあふれるまちであり続けることも忘れてはいけません。

さらに、これからの時代ではデジタル化などの技術革新はさらに加速しわたしたちの生活はより便利に、スマートに、そして安全・安心になっていきます。

都市部と地方の暮らし方や働き方の差が小さくなることも予想され、住む場所の選び方が多様化する中で、自然に囲まれた神河町の立地を強みとしていく視点も必要です。

変わらない魅力と変わる暮らし方。これらを両立させることでわたしたちのふるさと神河町が元気を生み出し続けることができるまちづくりを基本姿勢とします。



2 2050年の神河町のイメージ

ずっと大好き みんな大好き 夢ふくらむ かみかわ

町域の9割を占める山林や高原、清流と称される河川、昔ながらの田園風景などの豊かな自然や景観をふるさとの宝として地域で守り、その多面的な機能が最大限に活かされているまち。

地域には元気な子どもの笑い声が響き、住民同士のあいさつがこだまするような人と人のつながりによるぬくもりがあふれているまち。

最先端の技術を取り入れた便利で安全・安心な生活が実現しているまち。

そんな環境の中で、子育ても仕事も遊びも、子どもから高齢者まで、住民も訪れた人も、誰もが自分らしい暮らし方、楽しみ方を選ぶことができるまちをめざします。

神河町のことを「ずっと」大好きでいられるように。

世界中の「みんな」が神河町のことを大好きになるように。

未来に向けて夢がふくらむ神河町をともにつくっていきます。

分野別の
めざす姿

1

自分らしい
暮らし方を
選べるまち

- 1 自由な働き方・学び方を選択できる環境づくり
- 2 住民ニーズに応じた移動手段の確保
- 3 時代に即した買い物手段の確保
- 4 多様な暮らし方ができる住まいの確保

分野別の
めざす姿

2

いくつになっても
笑顔で健やかに
暮らせるまち

- 1 地域医療の充実
- 2 誰もが健康長寿を実現できる地域づくり
- 3 住み慣れた地域での暮らしの継続
- 4 地域ぐるみでの支え合いがある関係づくり

分野別の
めざす姿

3

自然に囲まれて
元気に子どもが
育つまち

- 1 安心して妊娠・出産できる環境づくり
- 2 子育て家庭を支える制度・サービスの充実
- 3 地域ぐるみによる子育て支援
- 4 子どもが自然の中で遊べる環境づくり

まち全体のめざす姿

変わらない
風景を
未来の世代へ

主な取組の方向性

- 1 山の再生と保全・活用
- 2 川の再生と保全・活用
- 3 農・田園環境の保全・活用
- 4 歴史的景観の保全・活用
- 5 環境保全・再生可能エネルギー等の活用
- 6 環境・景観を守るための人づくり

分野別のめざす姿

4

安全・安心が
持続するまち

- 1 災害に強い地域づくり
- 2 犯罪に遭わない・犯罪が起こらない地域づくり
- 3 交通安全の推進
- 4 感染症対策の推進

分野別のめざす姿

5

魅力と
活力あふれる
産業があるまち

- 1 スマート農業・スマート林業の推進
- 2 農林業の担い手育成
- 3 地域ブランドの創出
- 4 多様な就労の場の確保

分野別のめざす姿

6

世界で
活躍できる
人が育つまち

- 1 基礎を育てる学校教育の推進
- 2 個性を伸ばす・可能性を広げる教育の推進
- 3 多様な体験機会の創出
- 4 大人になっても学び続けることができる機会づくり

分野別のめざす姿

7

温かい交流が
あふれるまち

- 1 観光交流の推進
- 2 多文化共生の実現
- 3 時代のニーズに即した地域コミュニティの形成
- 4 地域の魅力の再発見・再確認
- 5 神河の文化の伝承

3 めざす姿

まち全体のめざす姿

変わらない風景を未来の世代へ



■めざす姿を実現するための主な取組の方向性

1 山の再生と保全・活用

計画的な針葉樹の主伐・再造林、間伐等を着実に行うことや広葉樹化を進めるなど、さらに魅力的な山林・里山として再生し、環境を保護するとともにその価値を高め、景観形成や災害防止、水源のかん養、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、林産物の供給など、多面的な機能を活用します。

2 川の再生と保全・活用

水源のまちとして下流域を含めた河川の水質改善に向けた取組や水害対策などの安全性の確保によりアユやアマゴなどの溪流釣りが楽しめることや子どもたちが安心して川遊びができるなど、昔ながらの川からの恩恵を受けられる環境へと再生し、その価値を高めます。

3 農・田園環境の保全・活用

田畑や里山、水路など美しい田園環境について農業従事者や地域の理解と協力、デジタル技術の導入等により効率的・効果的に保全しながら有効に活用します。

4 歴史的景観の保全・活用

銀の馬車道街道や福本遺跡を核とした関連遺跡区域などの歴史的景観について地域の理解と協力のもとで適切に保全しながら、住んでいる人、訪れた人にとって魅力を感じられる資源として有効に活用します。

5 環境保全・再生可能エネルギー等の活用

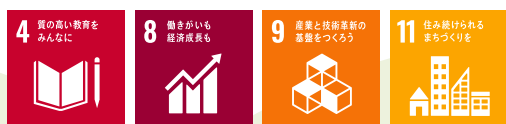
大気汚染や水質汚濁など環境への悪影響を及ぼすことがないよう、生活や事業活動を行うとともに再生可能エネルギー等の導入などによる脱炭素化やエネルギーの地産地消による地球にやさしい地域づくりを行います。

6 環境・景観を守るための人づくり

山、川、田園の環境や景観を守り、活かすことができるよう、住民一人ひとりの意識を高め、地域に伝わる山林や川の管理・保全の方法を次世代に継承していくとともに地域コミュニティ組織や集落営農組織、環境保全に関わる団体などの組織づくりや人材育成を行います。

まちづくりの分野別のめざす姿

1 自分らしい暮らし方を選ぶまち



2050 Kamikawa Story

「むこうの畑にいるのが僕のお父さんだよ。おーい。お父さん。」

「おかえり。この子は？」

「神河町を案内してるんだよ。お父さんも一緒にどうぞ？」

「これから会議なんだ。ゆっくり楽しんでいってね。じゃあ。」

カッコいい人だな。あれ？あのバイクみたいな乗り物。空飛んでる！やっぱり未来なんだ。

「お父さんはなんの仕事をしているの？農業？」

「農業もしながら外資系の商社で働いているよ。」

「通勤大変じゃない？」

「ほとんど在宅勤務なんだ。今日は本社の人とリモートミーティングって言ってたっけ。」

神河町に住みながら世界とやりとりできるなんて。わたしは大人になったら都会で働くつもりだったけど...

そういう働き方もアリかも。



■めざす姿を実現するための主な取組の方向性

1 自由な働き方・学び方を選択できる環境づくり

リモートワークやリモート授業の浸透により、神河町に住みながら世界とのつながりも含めた様々な仕事に就いたり学びの機会を得ることができるよう、時代に即したインターネット環境の充実や多様なライフスタイルについて考える機会をつくります。

コワーキングスペースの確保や起業・副業に関する相談・情報提供の場など自分らしい働き方を選択できる環境づくりを行います。

2 住民ニーズに応じた移動手段の確保

自動運転などの先端技術も活用しながら住民ニーズや地域特性に応じたバスや鉄道などの公共交通や自家用車・自転車・民間サービスなどの個別交通を組み合わせ、住んでいる人も訪れた人も誰もが便利で快適に安全に移動できる手段を確立します。

また、交通ネットワークや交通手段の充実により災害時等の移動手段を確保します。

3 時代に即した買い物手段の確保

町内の商業施設や移動販売など商品を手にとったり、顔の見える接客などリアルな買い物と合わせ、VRなどを活用したオンラインショップなど、多様な買い物手段を確保できるよう、通信基盤の整備や情報格差の解消を支援することで生活の利便性を高めます。

4 多様な暮らし方ができる住まいの確保

UJIターンによる移住や複数の生活拠点を持つライフスタイルにも対応できるよう、空き家の有効活用などによる住まいの場の確保や地域における受け入れを促進します。

2 いくつになっても笑顔で 健やかに暮らせるまち



2050 Kamikawa Story

「こんにちは。いい天気だね。」

この人たち近所の人だ。わたしの時代でもおじいさん、おばあさんだったような…。

「お元気ですね。おいくつなんですか？」

「今年で110歳だよ。」

すっ、すごい！高齢になっても元気に暮らせたり、地域の人とあいさつできる関係性も素敵だな。

「おでかけですか？」

「ちょっと病院まで。オンライン検査の結果はお医者さんと顔を合わせて聞きたいからね。」

その後、子どもたちに昔の遊びを教えに行くんだよ。」

自動運転のバスに乗った2人を見送るとなんだかあったかい気持ちになった。

いくつになってもいきいきと安心して暮らせる環境が整っているんだな。



■めざす姿を実現するための主な取組の方向性

1 地域医療の充実

地域医療のネットワークの強化や医療人材の確保など住民ニーズに応じた医療体制の充実、オンライン診療や遠隔手術などの先端技術を活用した広域的な連携の強化など安心して医療を受けられる体制づくりを行います。

2 誰もが健康長寿を実現できる地域づくり

誰もが地域の中で主体的に健康づくりやスポーツに取り組むことができるよう、場所の確保や仲間づくり、健診や診療データを活用した効果的な取組の情報提供などの環境づくりを行い、健康長寿を実現します。

3 住み慣れた地域での暮らしの継続

介護保険サービスや障がい福祉サービスの事業所の確保や介護・福祉人材の育成、介護ロボットなどの先端技術の導入により、高齢者や障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりを行います。

4 地域ぐるみでの支え合いがある関係づくり

日頃からあいさつを交わし合う関係性をつくることで高齢者や障がいのある人など支援を必要とする人や家族を地域で支えることができるコミュニティを形成します。



3 自然に囲まれて 元気に子どもが育つまち



2050 Kamikawa Story

ここは保育所か。元気な子どもの声は 2050 年でもいいものだな。

「ずいぶん若い保育士さんだね。」

「町内の中学生だよ。職業体験じゃないかな。」

わたしの時代にもあったけど 2050 年にも続いているんだな。

このお父さん、子どもをお迎えにきたのかな？

「こんにちは。地元の子？ 家族で大阪から引っ越してきたばかりなんだ。この子とも仲良くしてね。」

「どうして神河町に引っ越してきたんですか？」

「自然に囲まれたところで子育てしたくてね。山で虫捕りしたり川で遊んだりできる神河町は理想なんだ。」

神河町を選んでもらえてなんかうれしいな。

「地域で子育てを支えてもらっている感じもあるし。友達にもおすすめしているよ。」

わたしが暮らしている時代よりも神河町って人気になっているのかも？



■めざす姿を実現するための主な取組の方向性

1 安心して妊娠・出産できる環境づくり

広域を含めた産婦人科の確保や町内での助産師の確保など安心して妊娠・出産できる環境づくりを行います。

2 子育て家庭を支える制度・サービスの充実

保育所や認定こども園など保育の受け皿の確保や保育人材の育成とともに子育てに関する経済的負担の軽減など支援の充実を図り、安心して子育てできる環境づくりを行います。

3 地域ぐるみによる子育て支援

地域の子どもをみんなで育てる意識づくりや見守り・声掛けなど地域ぐるみによる子育て支援を充実します。

4 子どもが自然の中で遊べる環境づくり

子どもが山や川など自然の中で楽しく、安全に遊ぶことができるよう、地域における体験機会の創出や見守りを促進します。また、身近な公園など安心して遊べる場所づくりを充実します。



4 安全・安心が持続するまち



2050 Kamikawa Story

「何をしているの？」

「防災訓練だよ。いざというときは地域の中で助け合わなきゃいけないからね。」

未来でも人のつながりは大事なんだな。

「空を飛んでいるのは何？」

「台風のとときに山の土砂崩れや川が氾濫しないか、逃げ遅れた人がいないか確認するカメラだよ。犯罪とか事故の防止にも役立っているよ。」

「災害とか犯罪、事故って多いの？」

「神河町ではほとんどないけど、日頃から備えておかないとね。」

困ったことがあったら、役場や学校に相談したら一緒に考えてくれるから安心だよ。」

安全・安心な生活を守るために必要なことは、ずっと変わらないんだな。



■めざす姿を実現するための主な取組の方向性

1 災害に強い地域づくり

山林や河川の適切な維持・管理や家屋の耐震化、ドローンや救助ロボットの活用など災害による被害を最小限に食い止めるとともに地域における防災体制の強化などソフト・ハード両面からの防災・減災対策を行います。

2 犯罪に遭わない・犯罪が起こらない地域づくり

防犯カメラや地域における見守り、ネット犯罪等に巻き込まれないための情報共有・教育等により、犯罪に遭わない、犯罪が起こらないような地域づくりを行います。

3 交通安全の推進

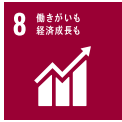
交通安全施設の充実や通学路の見直しなど、交通事故が起こりにくい仕組みづくりを行うとともに自動車の自動ブレーキなどの事故防止・軽減システムの普及とあわせ運転マナー、歩行者マナーの向上を推進します。

4 感染症対策の推進

今後も発生するおそれがある生活や経済活動に影響を及ぼす新たな感染症に対して感染拡大を防止するための生活様式や、思いやりを持った行動を心がけます。



5 魅力と活力あふれる 産業があるまち



2050 Kamikawa Story

「このパン屋さん、材料が100%神河町産なんだ。」

「すごくおいしいね。」

わたしが知らないおしゃれなお店もたくさん増えてるな。あの人たちは農家の人かな？

「何しているんですか？」

「僕は神戸から移住して神河町で農業を始めたんだけど、先輩に教えてもらってるんだよ。はじめての出荷なんだ。」

「どこに出荷するんですか？」

「トマトは東京、アスパラガスはフランス。お米も作ってて世界中から注文が入るよ。」

神河町にいながら世界とビジネスができるなんてすごい！

こっちは林業の人かな。若い人や女の人もいるみたい。

「どうして林業をはじめたんですか？」

「都会で働いていたんだけど森の中で仕事がしたくて。」

神河町は教えてくれる人もたくさんいるから助かっているよ。」

農林業の担い手不足って聞いてたけど、新しい人たちが支えてくれているんだなあ。



■めざす姿を実現するための主な取組の方向性

1 スマート農業・スマート林業の推進

ドローンやセンサーカメラ、気象データの活用、ロボット技術などを活用したスマート農業・スマート林業により省力化や品質向上、安全性の確保などにつなげ、農林業の魅力を向上します。

2 農林業の担い手育成

集落営農組織や森林組合など組織の強化や新規農業者、林業者の育成に向けた支援により担い手を育成します。

3 地域ブランドの創出

米や野菜、果物などの農林産物を地域資源として活かし、全国や世界に誇れる地域ブランドを創出し、地場産業として活性化するとともに農林産物が住民にも愛されるよう地産地消を推進します。

4 多様な就労の場の確保

企業誘致や起業支援、リモートワークがしやすい環境整備など多様な働き方が可能となる就労の場を確保します。



6 世界で活躍できる人が育つまち



2050 Kamikawa Story

「僕が通っている小学校だよ。」

わたしもこの出身なんだけどなあ。

「教室で何かしているね。」

「外国の小学校と一緒にリモート授業が受けられるんだ。」

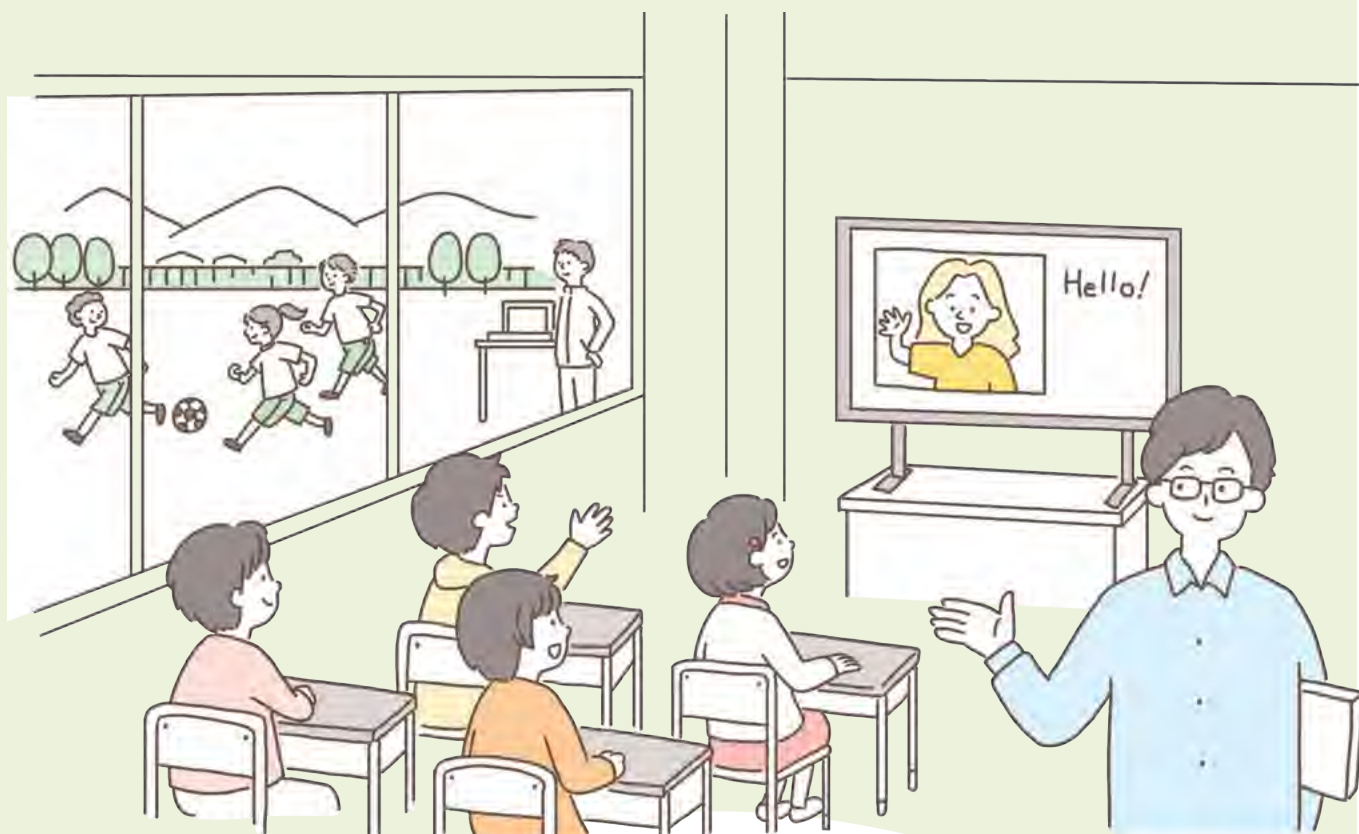
「校庭ではサッカーをしているね。」

「リモートでプロのコーチが指導してくれているんだよ。」

「君は将来どんな仕事をしたいの？」

「神河町に来た人に魅力を伝える仕事は楽しいかも。今日はそのリハーサルだね。」

小学生なのにしっかりしてるなあ。



■めざす姿を実現するための主な取組の方向性

1 基礎を育てる学校教育の推進

小学校、中学校において学力の向上だけでなく生きる力を育成するとともに学校と地域の連携により子どもたちの学びをサポートします。

2 個性を伸ばす・可能性を広げる教育の推進

スポーツや芸術・文化、科学分野など子どもたちの個性を伸ばし、将来の可能性を広げることができるようキャリア教育も含めて充実します。

3 多様な体験機会の創出

オンラインによる全国や世界とつながる授業や神河町の自然環境を活かした多様な体験機会を創出します。

4 大人になっても学び続けることができる機会づくり

子どもだけでなく大人になっても学びたいことを学び続けることができるよう、リカレント教育に取り組める環境づくりを行います。



7 温かい交流があふれるまち



2050 Kamikawa Story

「みんなで集まっているね。」

「お祭りの準備だよ。」

大人も子どももたくさんの方が一緒にがんばっているみたい。

神河町の伝統や文化が引き継がれているんだな。男の子が話しているのは外国の人みたい。

「日本語お上手ですね。神河町に住んで長いんですか？」

「去年引っ越してきたばかりだよ。日本語は大学で習ったんだ。」

「どうして神河町に住むことにしたんですか？」

「観光で来たとき駅に着いたら地域の人があいさつしてくれたり親切にしてくれてね。

砥峰高原や峰山高原の美しい風景も好きになって、ここで暮らしたいと思ったんだ。」

違う国の人や神河町を好きになってくれるなんてうれしいな。

地域の人とも仲良くしているみたいだし、こんなところも神河町の良いところだったんだ。



■めざす姿を実現するための主な取組の方向性

1 観光交流の推進

神河町の自然や歴史・文化を活かした観光資源の磨き上げとともに地域住民が観光来訪者へのおもてなしの心を持つことや自然、観光、歴史・文化の魅力の情報発信、広域連携などにより、全国、世界からの観光客を呼び込みます。

2 多文化共生の実現

観光来訪者や移住者など人種、国籍、世代などを超えた多様な交流や暮らしやすい環境づくりにより多文化共生を実現します。

3 時代のニーズに即した地域コミュニティの形成

世代に関わらずみんながあいさつし合えるような顔の見える関係を守りながら、リモートによるつながりなど多様化する価値観やライフスタイルも反映した時代に合った地域コミュニティをつくります。また、地域の中で誰もが役割や居場所があり、活躍できる機会を創出します。

4 地域の魅力の再発見・再確認

住んでいる人が神河町の魅力に気づき、愛着と誇りを持って、町内外に発信してもらえるような意識を育みます。

5 神河の文化の伝承

銀の馬車道や福本遺跡をはじめとした歴史・文化資源や生活の中での山や川との関わり方、伝統料理、行事、祭りなど、地域に根付いてきた文化を次の世代に伝承していきます。



「ここが僕の家だよ。あ、お母さん。」

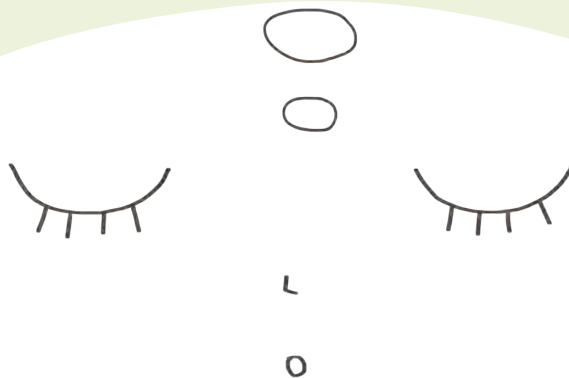
あれ？ここはわたしの家があった場所。もしかして未来のわたし！？

ということはこの子はわたしの...!？

最初に会ったこの子のお父さん。もっと顔を見とくんだった。

なんだか眠くなってきちゃった。そろそろ元の時代に帰れるのかな？

「ありがとう。未来で会おうね。」



Ⅱ 実現に向けて

1 ビジョンの実現に向けて

2050 Kamikawa Story

「居眠りしちゃだめだよ。」

気が付くと学校の授業中。戻って来れたんだ…。

さっきまでは夢だったのかな？

授業のテーマは『未来の神河町を考えよう』

わたしが見てきた理想的な未来の神河町を実現するためにはどうしたらいいんだろう。

未来の神河町を考えよう



\\ みなさんも未来の神河町について考えてみましょう //

MEMO

(1) 住民の行動目標

- 本ビジョンで掲げた未来の神河町の姿はあくまで一例です。一人ひとりが神河町に愛着と誇りを持ち、理想とする未来を思い描き、それが実現できるよう、自分たちのできることから取り組みましょう。
- 住民一人ひとりの暮らしが神河町の魅力を形成しています。いくつになっても生きがいを持ち、楽しく、幸せに暮らすとともに神河町の魅力を全国・全世界に発信しましょう。
- これからの時代は考え方や価値観がさらに多様化していきます。お互いの個性を尊重し合いながら必要なときには助け合えるよう、年齢、性別、障がいの有無、国籍などに関わらず積極的に交流しましょう。
- 自然からの恩恵や人とのつながりに対する感謝を持ちながら神河町の明るい未来を共につくりましょう。

(2) 行政の役割

- 時代の流れを読み住民の声を聴きながら、総合計画をはじめ各分野の個別計画などに基づくまちづくりの取組を展開します。
- 住民一人ひとりが理想とする未来の神河町を描き、その実現に向けて取り組んでいくことを支援するため、その舞台となる神河町が魅力を持ち続けることができるよう、自然や暮らしの環境の持続可能性を確保します。
- 神河町単独では解決することが難しい問題には国や県、周辺市町とも連携しながら、より良い解決策を見つけます。
- 本ビジョンで掲げた未来の神河町を実現するために総合計画や個別計画に基づく取組について、PDCA サイクルによる改善をしていきます。

2 ビジョンとSDGsの関係

(1) SDGsとは

平成 27 (2015) 年に国連サミットにおいて採択されたSDGs (Sustainable Development Goals-持続可能な開発目標) は令和 12 (2030) 年を期限とする国際社会全体の共通目標です。

世界が抱える問題を解決するため持続可能な社会をつくる 17 の目標と細分化された 169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを理念として経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に対する取組により、「持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現をめざすものです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

〈17 の目標〉



(2) めざす姿とSDGs

令和12(2030)年に「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」を実現するという国際社会の目標達成をめざすことでその先にある2050年の本ビジョンがめざす姿の実現にもつながっていくと考えられるため、めざす姿と関連するSDGsの目標を整理します。

まち全体のめざす姿	関連するSDGsの目標
変わらない風景を 未来の世代へ	  
自分らしい暮らし方を 選べるまち	   
いくつになっても 笑顔で健やかに暮らせるまち	 
自然に囲まれて元気に 子どもが育つまち	  
安全・安心が 持続するまち	   
魅力と活力あふれる 産業があるまち	    
世界で活躍できる 人が育つまち	
温かい交流が あふれるまち	 

分野別のめざす姿

II

実現に向けて

Ⅲ 2050 神河将来ビジョン について

1 ビジョンの役割

(1) ビジョンとは

ビジョンとは行政が実施する事業を示す行政主導型の計画ではなく、住民の想いを描いた地域の「なりたい姿=理想の将来像」であり、その実現に向けて多様な主体が共に取組を進めるための未来に向けたまちづくりの羅針盤（進むべき方向を示すもの）となるものです。

(2) ビジョンの必要性

わたしたちが暮らす社会は今、大きく変化しています。人口減少や少子高齢化などの人口構造の変化。新型コロナウイルス感染症の拡大による人との交流や暮らし方、働き方の変化。一方で先端技術の進歩は、わたしたちの生活をより便利に、快適なものに変えてくれることが期待されています。

これからの社会がどんなものになっていくかは誰にも正確に予想することはできません。しかし、神河町で暮らす住民の生活をどのようにしていきたいか？どんな神河町を次の世代に受け継いでいきたいか？という「理想とする未来」を描くことはできます。

2050 神河将来ビジョン（以下、「本ビジョン」）では、こうした「理想とする未来」をみんなが共有できるものとして見える化し、その実現に向けて多様な主体が共に取り組める指針として策定するものです。

(3) 基本的な性格

① 共に描くビジョン

住民一人ひとりが暮らしたいまちのあり方を想像し、共有することが大切です。本ビジョンを通じて「理想とする未来」のイメージを提示することで、住民一人ひとりが「未来にどんな暮らしをしていたいか」を考えるきっかけとしてもらうのが本ビジョンの役割です。

② 共に取り組むビジョン

「理想とする未来」を実現するためには誰かに叶えてもらうのを待っているのではなく、多様な主体が共に取り組むことが必要です。本ビジョンが描くような未来に向けて、一人ひとりができることを考え、実際の行動に移してもらうことを期待します。

③ 共に成長するビジョン

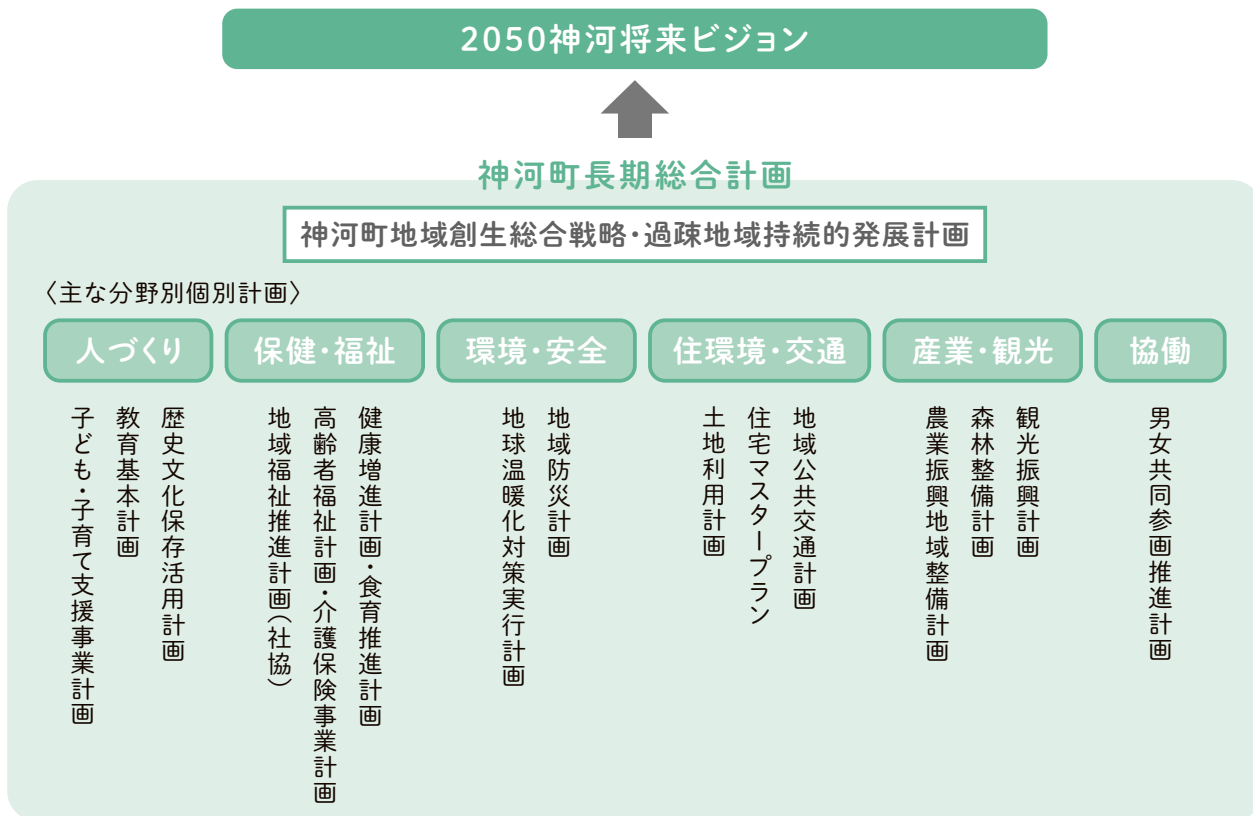
時代は日々変化していきます。社会情勢や個人の価値観の多様化、先端技術の進歩などにより、ひょっとしたら今イメージする未来の世界とは別の未来が訪れるかもしれません。そうした変化にも柔軟に対応しながら神河町の「理想とする未来」を実現することができるよう、成長し続けるビジョンをめざします。

(4) ビジョンの位置付け

神河町ではまちの最上位計画である第2次神河町長期総合計画や人口減少対策に特化した第2期神河町地域創生総合戦略、福祉や産業、住環境など、それぞれの分野別計画を策定しています。

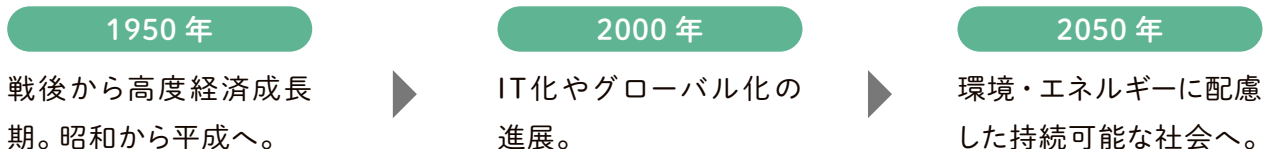
本ビジョンはこれらの各種行政計画に基づく施策・事業を展開するにあたり、「長期的な目標=理想とする未来」を示すものとして位置付けます。

そのためこれから策定・改定する各種行政計画では、本ビジョンが描く「理想とする未来」につながる具体的な取組となっているか整合を図るものとします。



(5) ビジョンの展望年次

わたしたちの子や孫が暮らす神河町がどんなまちであるべきか?を考える視点とするため、一世代後のおよそ30年先である2050年を展望したビジョンとします。



2 ビジョンの前提条件

(1) 主な社会潮流

本格的な人口減少と 少子高齢化の進行

日本の総人口は平成 20 (2008) 年をピークに減少局面に入り、令和 35 (2053) 年には1億人を下回ると推計されています。出生数は減少し続ける一方、令和 7 (2025) 年には団塊の世代が後期高齢者 (75 歳以上) に達するなど少子高齢化による人口構造の変化が予測されます。

スーパーの撤退など生活利便性の低下や担い手不足による地域コミュニティの維持が困難になるなどの影響が考えられる一方、人生 100 年時代ともいわれる長寿社会では健康寿命の延伸により、いくつになってもいきいきと暮らすことができる社会が訪れるかもしれません。

先端技術の発展による 生活の変化

情報通信技術 (ICT : Information and Communication Technology) などの飛躍的な発達と情報通信機器の普及・多様化により生活や企業活動、行政サービス、社会経済システム等が変化しています。

国ではIoTによりサイバー空間 (仮想空間) と現実空間を連携し、すべての物や情報、人をつなぐとともにAI 等の活用により最適化を図る社会「Society5.0」を提唱しており、ロボットや自動運転などの技術革新が進展することで、暮らし方や働き方が変化していくことが予測されます。



持続可能な 地域づくりの推進

持続可能な開発目標－SDGs (Sustainable Development Goals) は世界が抱える問題を解決し持続可能な社会をつくるための 17 の目標と 169 のターゲットを定め、「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現をめざしており、経済、社会、環境をめぐる幅広い分野の課題に取り組む国際社会の普遍的な目標としてあらゆる主体が取り組むことが求められています。

また、国では温暖化への対応を経済成長にとってマイナスに捉えるのではなく成長の機会と捉え、産業構造や社会経済の変革をもたらす「経済と環境の好循環」を作っていくため、「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を掲げ、脱炭素化をめざしています。さらに、化石燃料から再生可能エネルギーへのシフトが進む中で、発電効率の高い新たなエネルギーの普及が加速することも考えられます。

グローバル化と多文化共生、 さらなる多様化の時代へ

経済のグローバル化や人口減少への対応のための労働力確保の必要性を背景として就労のため来日する外国人が増加しています。また、国ではさらなる観光立国となるため『世界が訪れたい日本』をめざし、訪日外国人を令和 12 (2030) 年には 6,000 万人の達成を目標としています。令和 2 (2020) 年以降は新型コロナウイルス感染症により訪日外国人が激減したもののポストコロナ社会における新たな観光のあり方が求められており、こうしたことを背景としてこれまで以上に多文化共生を推進していくことが必要となっています。

また、性別、年齢、障がいの有無、国籍・文化的背景などにかかわらず一人ひとりが違った個性や能力を持つ個人として尊重され、誰もが自分らしく能力を発揮しながら参画・活躍できる社会が求められているなど、あらゆる場面においてさらなる多様化の時代を迎えています。



安全・安心への 意識の高まり

全国各地で台風や集中豪雨、大規模な地震等が発生するなど自然災害が激甚化・頻発化しており、暮らしの安全の確保はまちづくりの最も大切な要素となっています。災害時における自助・共助・公助の取組が求められるとともに防災・減災、国土強靱化についてデジタル化・スマート化を図りつつ地域の防災力を高めるハード・ソフト一体となった取組が必要です。

さらに新型コロナウイルス感染症の流行により感染症対策や健康への意識が高まっており、暮らしや仕事においてデジタル化・リモート化など、感染リスクをおさえながら生産性の向上を図る「新しい生活様式」が求められています。

協働のまちづくりの 必要性の高まり

全国的に人口減少、少子高齢化、自治会加入率の低下等、地域活動の担い手の減少により地域コミュニティの活力が低下しています。また、地域の間関係が希薄化する中で見守り活動や近隣の助け合い等、地域のつながりの大切さが再認識されており、地域コミュニティによる自治を継続するためには特に住民の参画・協働の視点に立ったまちづくりが求められています。

SDGsの実現を含む社会的課題への取組には官民連携による協働の促進が求められているとともに地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の構築や認知症者への支援、子どもの貧困対策など、福祉分野においても多様な主体による社会的連帯や支え合いの醸成が求められています。



(2) 住民の想い

豊かな自然・農村の環境を残したい

誰もが山や高原、美しい田園風景、川など神河町の豊かな自然・農村の環境に誇りや愛着を持っており、2050年にも残していきたいと願っています。また、こうした環境が町外の人からも住んでみたいと思える魅力の一つとなっています。

山、川、田園等を守っていくためには地域において農業、林業を持続させ、森林・田園の荒廃を防ぐとともに一人ひとりが環境にやさしい暮らし方を実践することが必要です。

農業、林業のスマート化、暮らしのデジタル化が進むことで「田舎」のマイナス面は解消され、都会で忙しく暮らすよりも山々に囲まれ、ゆったり、のびのび、静かに暮らすことができる神河町のライフスタイルは、2050年にはとてもぜいたくなことになっているかもしれません。

この恵まれた環境を今のまま残し、自然と共生できるまちであることこそが神河町の魅力を最大化することにつながると考えられます。

「都会の便利さ」は交通・ネットワークで

買物やレジャーなど「都会の便利さ」が町内になくても交通の充実やオンラインでのつながりがあれば大丈夫。ひょっとしたら2050年には車が空を飛んでいて姫路までコンビニ感覚で行くことも実現していたり、インターネット販売や宅配の仕組みがさらに進化すれば、神河町にいながらなんでも簡単に手に入るようになっているかもしれません。

オンラインでのやりとりがさらに気軽に、快適にできるようになれば在宅勤務も当たり前になるし、世界中の人とつながったり神河町から情報を発信したりできるでしょう。

これまで便利な暮らしを希望したり通勤・通学時間がかかることを理由に神河町を離れた人も神河町に戻ってくることを選択できたり、田舎暮らしにあこがれてやってきた人が神河町での生活をスタートしやすくなったり、みんなが自由に自分らしい暮らしが実現する未来が描けるのではないのでしょうか。



未来の子ども達が健やかに成長できるように

昔も今も、そして未来においても子どもは地域の宝です。2050年にも神河町の子どもたちが山や川で虫や魚を捕まえたり、都会ではできないかけがえのない体験をしながら元気に育ってほしいというのがわたしたちの願いの一つです。

子どもを産み、育てやすい子育てサポートの充実や質の高い教育の提供、身近な公園や子どもたちが安心して遊べる場所がもっと増えていけば、さらに理想的な子育て環境が実現します。そして神河町で育った子どもたちが、自分自身が親になるときに「神河町で子育てしたい」と思っていてくれれば、さらに先の世代にも魅力的な神河町をつなげていくことができます。

子どもを中心にたくさんの笑顔があふれ、あいさつがこだまするまちであり続けることができれば、未来の神河町はいつまでも「元気なまち」と言えるでしょう。

誰もがいくつになっても元気にいきいきと。 多様な交流がある！

2050年には医療や福祉のサービスにも先端技術を取り入れることで、さらなる健康長寿が実現したり、介護が必要だったり障がいがあっても地域の中で自分らしく暮らし続けることができるまちになっているでしょう。また、高齢化が進むことは「地域に人生経験が豊富な人材が増える」ことでもあり、人とのつながりや地域における助け合いなど「ハートがふれあうまち」としての神河町の良いところをさらに強みとしていくこともできるかもしれません。

誰もがいくつになっても健康でいきいきと暮らせるまちは、魅力的なまちと言えるでしょう。

価値観の多様化、多文化共生が進む中、地域コミュニティのあり方も今とは変わっていくことが予想されますが子どもも大人も高齢者も外国人にルーツを持つ人も、みんなで話し合い知恵や力を出し合って、地域の課題を解決したり、祭りや行事の伝統を引き継いでいくことも大切な要素です。

安全・安心が続くように。 「住みたい・住み続けたい」と思えるほっとするまち！

時代が変わってもわたしたちの生活の中で一番大切なことは、安全が確保され安心して暮らせることです。自然災害の発生や犯罪、交通事故など、いつ、どこで被害に遭ってしまうかわかりません。森林や河川が適切に管理されていることや防犯・交通安全設備の充実、地域のつながりによる助け合い、支え合いの関係性が保たれていれば被害を最小限に食い止めることができます。

誰もが安心して「住みたい・住み続けたい」と思えるような、ほっとするまちであり続けることが必要です。

3 策定の視点

(1) 住民の想いを実現するために

本ビジョンは住民の想いを実現するためのものとして住民の声、特に2050年に向けて若い世代の声を踏まえて策定するためアンケートによる住民意識調査、中学生意識調査、中高生、住民等が参加したまちづくりワークショップを実施しました。

住民一人ひとりが共有できる理想とする2050年の神河町を実現するためのビジョンとします。

(2) より良い未来へ向かうために

人口減少・少子高齢化の進行、大規模災害の発生など、これからの時代に不安を抱くこともありますが、様々な変化を前向きに捉え、先端技術を活用したりみんなで知恵を絞り、協力し合うことで、未来の暮らしが今よりも良いものになっていることをめざすビジョンとします。



資料編

■ アンケート調査について

1 調査の目的

住民及び中学生から希望する未来の神河町のあり方や、そのために必要な考え方などについてのご意見をいただき、「2050 神河将来ビジョン」策定の基礎資料として活用することを目的に実施しました。

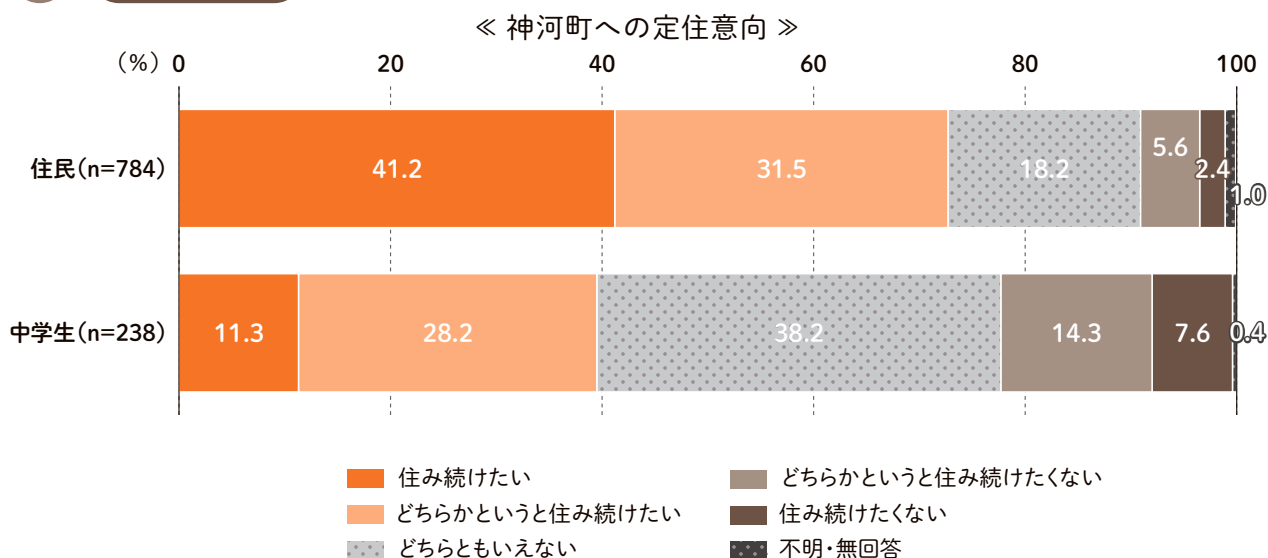
2 調査概要

- 調査対象者：① 町内在住の18歳以上の方（無作為抽出）
② 町内在住の中学生
- 調査期間：令和4（2022）年8月～9月
- 調査方法：① 郵送配布・郵送回収による本人記入方式またはWEBによる回答
② 学校を通じて調査票を配布、WEB上での回答（生徒支給のタブレットを使用）

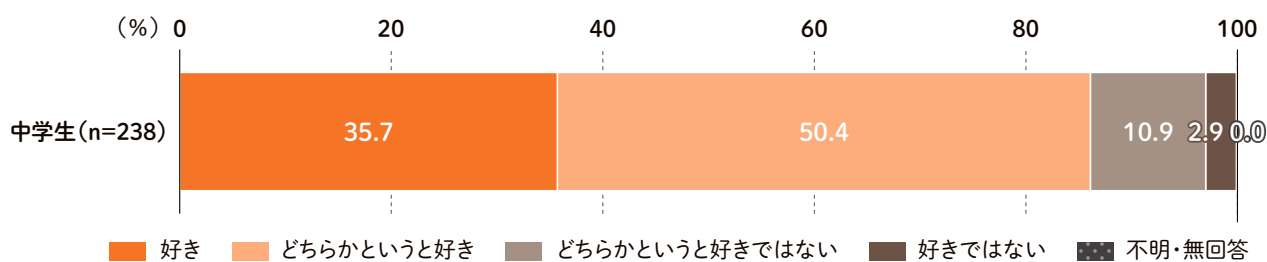
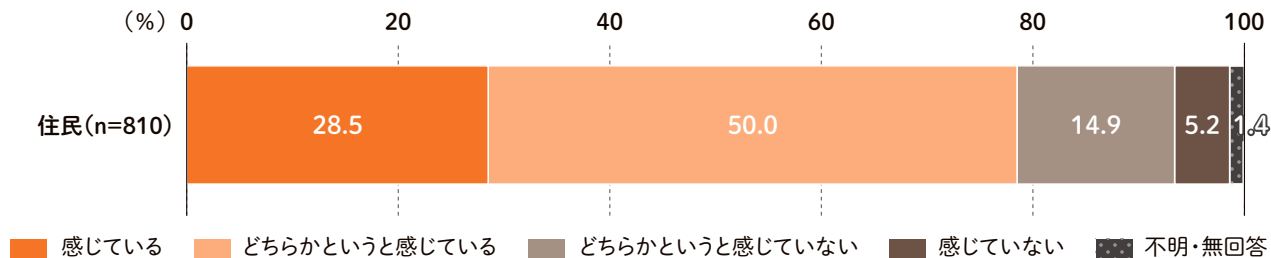
3 回収結果

	住民アンケート調査	中学生アンケート調査
配布数	2,000 件	238 件
有効回収数	810 件	238 件
有効回収率	40.5%	調査時欠席等を除く全生徒を対象に実施

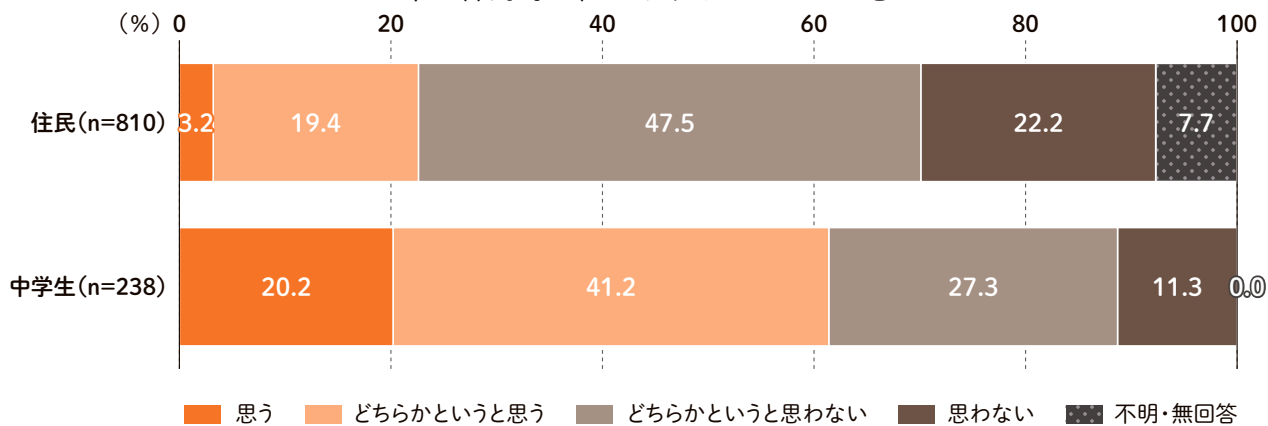
4 主な結果



《 神河町への愛着度 》



《 2050年の神河町が住みやすくなっていると思うか 》



《 2050年に残していきたいもの 》

自由記述 (住民、中学生)
田園風景や豊かな自然の景観、自然を大事にする精神
きれいな川・おいしい水・漁業など水資源(アユやホタル、水生生物)の保全
人との絆やつながり、助け合いの心
農林業の維持・活性化
銀の馬車道や歴史的建造物、伝統文化
観光スポットや観光資源
神崎総合病院を中心とした地域医療の充実

■ ワークショップ意見

1 ワークショップの目的

ワークショップを通して、2050年の神河町の未来の姿やそこで暮らしている自分をイメージしてもらい、未来に残していくべき魅力やこれから創出すべき機能や仕組みなどについて、参加者自身が考え、気づき、まちや自分の将来を考えるきっかけづくりをするとともに、その想いを将来ビジョンに反映することを目的に実施しました。

2 実施概要

- 開催日時：令和4(2022)年8月21日(日)13:00～15:30
- 開催場所：神河中学校多目的ホール
- ワークショップ手法：「ワールド・カフェ方式」
- 参加人数：計45名
- 参加者：策定委員会有志、職員WG(役場若手職員)、神河中学校・神崎高校等、その他一般募集の皆さま

3 主な意見

≪ 暮らしたい神河の“ミライ”の姿(2050年の神河町の姿) ≫

教育やIT環境が充実して
都会にも行きやすい
便利なまちになったらなあ

子どもたちが楽しく
安全に安心して
暮らせるまちにしたい!

山、川などの豊かな
自然があるまちを
残していきたい!

楽しめる場所や
施設があり、
子育てしやすいまち!

農林業を持続できる
システムが必要!

お店が多くて学生が
増えるまちがいい!



≪ “ミライ”の神河でどのように暮らしたいか? ≫

仕事や買物は
都会でしながら神河
町で暮らしたい!

地域で多様な交流を
しながら、高齢になっても
健康に暮らしたい!

豊かな自然の中で
自由に暮らしたいなあ



自然に囲まれた
静かな環境で
元気に暮らしたいなあ

町外の遊ぶ場所にも
移動しやすいと便利!

神河町の良好な環境で
子育てしたい!



■ 策定経過

日程等	内 容
令和4(2022)年 7月27日	≪第1回 2050 神河将来ビジョン職員ワーキンググループ≫ ≪第1回 2050 神河町将来ビジョン策定委員会≫ ■ 2050 神河将来ビジョン概要 ■ アンケート調査について ■ ワークショップについて
8月	≪住民アンケート調査の実施≫
8月21日	≪神河みらい創造ワークショップ 2050 ≫ (第2回 2050 神河町将来ビジョン策定委員会) ■ 暮らしたい神河の“ミライ”の姿(2050年の神河町の姿) ■ “ミライ”の神河でどのように暮らしたいか?
9月	≪中学生アンケート調査の実施≫
10月 10月18日 10月26日 10月31日	≪関係団体ヒアリング≫ ■ 農業委員会 ■ 森林組合 ≪第2回 2050 神河将来ビジョン職員ワーキンググループ≫ ≪第3回 2050 神河将来ビジョン職員ワーキンググループ≫ ≪第3回 2050 神河町将来ビジョン策定委員会≫ ■ ワークショップ、アンケート結果の報告 ■ 2050 神河将来ビジョンたたき台等について ■ 職員ワーキングにおける検討状況について
11月～12月	≪2050 神河将来ビジョン(素案)の作成≫
令和5(2023)年 1月11日	≪第4回 2050 神河町将来ビジョン策定委員会≫ ■ 2050 神河将来ビジョン(素案)について
～1月31日	≪町民への意見募集≫
～2月16日 2月20日	≪議会への意見募集≫ ≪第5回 2050 神河町将来ビジョン策定委員会≫ ■ 2050 神河将来ビジョン(最終案)の確認
3月1日	≪町長への答申≫

■ 設置要綱

2050 神河将来ビジョン策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 2050年を見据え神河町の将来像を描くため、2050神河将来ビジョン策定委員会(以下「委員会」という。)の設置に関し、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、町長の諮問に応じ、神河町将来ビジョンの策定に関する事項について、必要な調査及び審議を行う。

(組織)

第3条 委員会は、委員20人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

(1) 関係団体の代表者

(2) 識見を有する者

(3) 前2号に掲げる者のほか、町長が必要と認める者

3 前項に定める者のほか、特定の課題について専門的見地から研究する者を、将来ビジョン研究員として委嘱することができる。

4 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選出する。

5 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

6 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2050神河町将来ビジョンの策定が終了するまでとする。

2 委員の欠員により新たに委員を補充する場合は、その任期は前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその会議の議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

4 委員長は、必要があるときは、第3条第2項及び第3項に規定する委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(小委員会)

第8条 委員会は、必要に応じ、小委員会を置くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、ひと・まち・みらい課において処理する。

(委任)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

この要綱は、公布の日から施行する。

■ 委員名簿

2050 神河将来ビジョン策定委員会 委員名簿

敬称略

分野	所属・役職	氏名	備考
商	神河町商工会長	森本 守雄	2022.11.16まで
	神河町商工会長	片岡 仁	2022.11.17より
	神河町商工会青年部長	杉田 俊行	
	神河町商工会女性部長	谷総 千恵子	
山	中はりま森林組合代表理事組合長	船田 穰	
観	一般社団法人 神河町観光協会長	藤井 永司	
農	神河町農業委員会長	廣納 正	
学	兵庫大学副学長	田端 和彦	委員長
	神戸情報大学院大学	矢野 孝一	副委員長
住	神河町区長会長	森 明文	
	神河町民生委員児童委員 主任児童委員	森本 浩子	副委員長
	神河町子ども会連絡協議会	足立 晃二	
	クールチョイス推進実行委員会委員長	林 善一	
	いずみ会会長	小島 いつみ	
	子育て支援インストラクター	井門 真由美	
	移住者代表	山口 奈央	
	神河町連合PTA会長	井上 昇三	
	中播磨新地域ビジョン検討委員会委員	浦上 健作	

■ 用語解説

用語	解説
IoT	Internet of Things の略。「モノのインターネット」。パソコンやスマートフォンなどの情報通信機器に限らず、様々なモノがインターネットにつながり、より便利な生活やビジネスにつながる仕組み。
ICT	Information and Communication Technology の略。情報技術に通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉。
AI	Artificial Intelligence の略。人間が行う「知的ふるまい」を、コンピュータプログラムで人工的に再現したもの。
間伐	木を切ってまばらにする山林の手入れ。森林が茂りすぎるのを防ぐことで、水源かん養機能や土砂流出防止機能や、多様な生物の生息を維持する目的がある。
官民連携	公共の事業に民間事業者のノウハウや資金力を活用すること。
キャリア教育	社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、一人ひとりの発達を促す教育。
共助	社会保険など制度化された相互の扶助。
健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。
公助	個人や地域で解決できない課題について行政が支援すること。
コワーキングスペース	事務所スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながらそれぞれが独立した仕事を行う共同利用型の場所。
再生可能エネルギー	太陽光や風力、地熱といった自然界に存在するエネルギーのこと。一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇せず繰り返し利用できる。
在宅勤務	所属している会社のオフィス等ではなく、自宅で働くこと。
自助	災害への備えなど、自分でできる対策は自分で行うこと。
スマート化	情報システムや各種装置に高度な情報処理能力あるいは管理・制御能力を持たせることで、人間の労力や負担を減らし、より便利にすること。
生物多様性	生態系、生物種、遺伝子などそれぞれの段階で多様な生物が存在している状態。
Society5.0	仮想空間と現実空間を融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する社会。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会を指す。

■ 用語解説

用語	解説
脱炭素化	地球温暖化の原因と考えられる二酸化炭素の排出量の実質ゼロを目指すこと。
多文化共生	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築きながら共に生きていくこと。
団塊の世代	昭和 22 (1947) 年から昭和 24 (1949) 年頃の戦後の第1次ベビーブーム時代に生まれた世代。
地域共生社会	制度や分野ごとの縦割りや支え手・担い手という役割を超え、地域住民や地域の様々な主体が『我が事』として地域に参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民の暮らしや生きがい、地域を共に創っていく社会。
地産地消	地域で生産された農林産物などを、その地域内で消費すること。
ドローン	遠隔操作または自動制御により無人で飛行することができる航空機のこと。
2050 年カーボンニュートラル	二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを 2050 年までに目指すこと。
PDCA サイクル	Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Act (改善) を繰り返すことによって、業務を継続的に改善すること。
VR	「Virtual Reality」の略で、「仮想現実」と呼ばれる。専用のゴーグルで 360° 人間の視界を覆うように映像を映すことで、実際にその空間にいるような感覚を得られる技術のこと。
ポストコロナ社会	新型コロナウイルスが世界的に流行したことで、流行以前と生活様式が変化した後の社会のこと。
UJI ターン	大都市圏の居住者の地方移住の形態の総称。U ターンは出身地に戻る形態、J ターンは出身地の近くの地方都市に移住する形態、I ターンは出身地以外の地方へ移住する形態を指す。
リカレント教育	学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すこと。
リモート授業	パソコンやタブレットを使い、遠隔で授業や講義を行なう形態のこと。動画をダウンロードするなどして、自由な時間に授業を受けることができる「オンデマンド授業」なども含む。
リモートワーク	会社のオフィスなど特定の場所に出社せず、離れた場所から働く勤務形態のこと。

2050神河将来ビジョン

令和5(2023)年3月

発行・編集：兵庫県 神河町

〒679-3116 兵庫県神崎郡神河町寺前 64 番地

TEL：0790-34-0001(代表)

FAX：0790-34-0691(代表)

E-mail:soumu@town.kamikawa.hyogo.jp

2050
KAMIKAWA
Future
Vision

